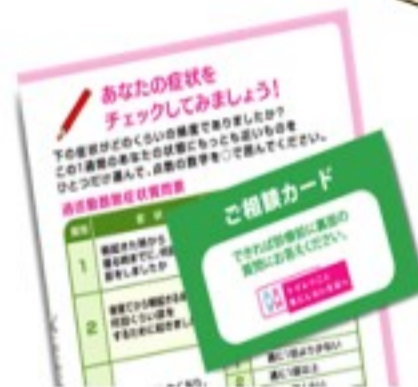


News Letter

女性尿失禁外来を開設します

泌尿器科



令和元年8月から、当院の泌尿器科が高知大学と連携し、専門外来である「女性尿失禁外来」を開設します。女性の尿失禁を専門にみる診療枠となります。

咳やくしゃみなど、お腹に力を入れた時に尿が漏れる、といった症状は「腹圧性尿失禁」かもしれません。お産の経験のある女性のうち、20%以上に腹圧性尿失禁の症状があるといわれています。

同じ尿失禁でも、尿意切迫感を伴う尿失禁である「過活動膀胱」という病気もあります。40歳以上

の女性のうち、10人に1人の方に過活動膀胱の症状があるといわれています。過活動膀胱は、体操や膀胱訓練などの治療方法に加え、お薬が有効なものもあります。当科ではもともと過活動膀胱の治療に力を入れていましたが、これまでに「腹圧性尿失禁」に関しては画期的なお薬はありませんでした。ところが最近、腹圧性尿失禁に対して、手術を含めた治療方法が確立されるようになってきています。当科では常勤の泌尿器科医師に加え、高知大学医学部附属病院泌尿器科医師を招き、月1回の専門外来を開設することとなりました。まずは当院の常勤医師が診察しますので、通常の泌尿器科外来を受診してください。専門的な診療が必要な場合は、「女性尿失禁外来」をご案内します。



「腹圧性尿失禁」は、お産の経験のある活動的な40代から70代の女性にみられる場合が多く、手術という選択肢もあります。具体的には、TVT手術（中部尿道スリング手術）・LSC手術（腹腔鏡下仙骨脛固定術）などの手術療法があります。これらの手術が適しているのは、尿道周囲の支持構造がゆるむことによつて起こる「腹圧性尿失禁」です。すべての方に手術が適しているわけではありませんが、ご希望を伺いながら治療方針を決めていきます。

尿漏れでお困りの方は、お気軽にご相談ください。



入退院支援センターの活動について



当院の入退院支援センターは、平成28年4月「入院前から始める退院支援」をコンセプトとし開設されました。入院前・入院早期から多職種で連携して支援を行うことで、患者さんに安全で間違いのない医療を受けていただくこと、また患者さんご家族が安心してできる療養生活につなげることを目指しています。

入退院支援センターの構成員は、センター長（兼務）の医師1名、看護師6名、事務職員2名の計9名で構成し、入院支援担当と退院支援担当に分かれて業務を行っております。

入院支援業務

検査や手術のために入院が予定された患者さんに対し、入院前から看護師や薬剤師などが面談し、入院時の事務手続きのご案内や入院中に行われる治療や過ごし方について説明を行います。また、病歴や入院前の経過や生活の様子についての聞き取りや、内服薬や服用を中止するお薬の確認を行います。

入院や退院後の生活への不安がある場合は、必要に応じて専門職につなぎ、安心して入院に臨めるように支援を行っております。



退院支援業務

当院では病棟ごとに担当者を決め、退院支援が必要となる患者さんに対し、入院早期から医師や病棟看護師、社会福祉士、薬剤師、栄養士、リハビリテーションスタッフなどの多職種でカンファレンスを行い、退院後の生活を見据えた支援について方向性を確認しています。地域のケアマネジャーや訪問看護師との連携も行い、患者さんご家族の支援につなげていきます。

また患者さん・ご家族からの療養に関する相談、転院療養先の情報提供・選択支援、介護保険利用に関する相談・支援、退院前後の在宅訪問など安心して次の療養場所に移行していただけるよう支援を行っております。

入退院支援センターは2階のEブロックにあります。退院支援看護師に相談等がございましたら、病棟看護師まで声をかけていただければ病室に伺わせていただきます。また来院が困難なご家族の方に対しては、平日昼間に電話での対応もさせていただきます。

第1回 けんみんいきいき講座

「糖尿病って知っていますか？」

テーマ：糖尿病とは？

日時：

令和元年10月29日（火）

午前11時半～12時

けんみん病院

内科医師

野島 滋

管理栄養士

川崎 愛

臨床検査技師

野町 真由

上岡 千夏

場所：幡多けんみん病院

3階 大会議室

【問い合わせ先】

電話：

(0880)66・2222(代表)

担当：内科外来

※参加無料、事前申込不要



優しい食生活

栄養科



良心市にいくといつもカツオが並んでいます。

刺身かタタキか、煮付けるか、家族の好みを思い浮かべながらどうやって食べようか考えて悩むこともあるのではないのでしょうか。

食べ慣れたカツオをタタキのタシや塩だけでなく、少しアレンジしたレシピを紹介します。

どちらも定番の味付けを変えたい時や、食欲の無い時にもおすすめです。

一品目はサラダ仕立てにしてみました。秋に入って脂がのった戻り鰹でもさっぱりと食べられます。

「かつおのピリ辛ソースあえ」

【材料】（2人分）

- ・かつお 1/2節
- ・水菜 50g
- ・貝割れ菜 1/2パック

A

・オリーブオイル	大さじ1
・コチュジャン	大さじ1
・しょうゆ	小さじ1
・酢	小さじ1
・砂糖	小さじ1/3

（作り方）

①かつおは5㎝厚さに切る。水菜は4㎝長さに切る。貝割れ菜は根元を除き、長さを半分に切る。

②ボウルにAを混ぜ合わせ、①を加えてさっと和える。

※白ごまをたっぷりかけたり、焼きのりを刻んでのせたりしても美味しいです。

生で食べるのが苦手な方には生姜風味を効かせた香り揚げがおすすめです。

「かつおの香り揚げ」

【材料】（2人分）

- ・かつお 200g
- ・レタス 2枚
- ・トマト 4切れ
- ・レモン 1/4個
- ・片栗粉 適量
- ・油 適量



A

・しょうゆ	大さじ1
・みりん	大さじ1
・しょうが	小さじ1

（作り方）

①かつおは1㎝厚さに切り、Aで下味をつける。

②レタスは千切り、トマトとレモンはくし切りにする。

③①に片栗粉をまぶし、焦がさないように油で揚げる。

④器に②と揚げたての③を盛り付ける。

※にんにくが好きな方は生姜をにんにくに変えて使ったり、合わせてもよし。お子さんには生姜の代わりにカレー粉を加えると喜んで食べてくれます。

好みでしそやみょうがなどの千切りを添えても良いです。



今後の催し

がんサロン「ふたば」



がん患者さんやそのご家族が集まって、悩みや体験などを語り合う場所です。

日頃思っていることや不安、悩みをお話してみませんか。

幡多地域に居住されている方に限らず、また治療を受けている医療機関を問わず、どなたでも自由に参加できます。

日時：①令和元年9月19日（木）
15時～17時

場所：幡多けんみん病院
3階 大会議室

問い合わせ先：

幡多けんみん病院
（がん相談支援センター）

電話：（0880）66・2222（代表）

※参加無料、事前申込不要



病院の理念

1. 幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2. 地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの**（薬剤情報提供書・お薬手帳など）を持って行くようにしましょう！

私たちの目指す医療（基本方針）

1. 正確で間違いのない医療
2. 十分に説明をする医療
3. 透明性を大切にする医療
4. 患者さんの希望を大切にする医療

第51回 幡多ふれあい医療公開講座



日時：

令和元年9月8日（日）

13時開場 13時半開演

（16時終了予定）

場所：

大方あかつき館

内容：

①嗅覚と老化について

高知大学医学部地域看護学教授（耳鼻咽喉科学専門医）
奥谷 文乃

②こころの健康

こころ心理学入門 こころのこころ・おとなのこころ

渡川病院 院長

吉本 啓一郎

この講座は「高知家健康パスポート事業」対象講座です。どなたでも参加できます。

後援：

四万十市・宿毛市・土佐清水市・黒潮町・大月町・三原村・幡多福祉保健所・幡多医師会

※参加無料、事前申込不要



【問い合わせ先】

幡多けんみん病院

（経営事業課）

（0880）66・2222

*または各市町村担当部署

統計	7月
外来患者数	10982人
新外来患者数	1715人
新入院患者数	492人
退院患者数	502人
平均在院日数	12.3日
救急車・時間外患者数	1143人
手術件数	181件

幡多けんみん病院における患者さんの権利

1. 良質な医療を平等に受ける権利
2. 医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利
3. プライバシーが保護される権利
4. 自分の希望を伝え、自らの意思で選択し、決定する権利
5. 人間としての尊厳が守られる権利
6. 他の医療機関の医師の意見「セカンドオピニオン」を求める権利

